百人一首

⑤番から⑧番

年　月　日　曜日

名前（　　）

百人一首を書きましょう。

奥山に　紅葉踏みわけ　鳴く鹿の
声きく時ぞ　秋は悲しき

【現代語訳】
奥山で紅葉を踏み分けて鳴いている鹿の声を聞く時こそ、秋の悲しさを感じるものだ。

猿丸大夫

かささぎの　渡せる橋に　おく霜の
白きをみれば　夜ぞふけにける

【現代語訳】
かささぎが連なって渡したという橋、つまり、宮中の階段におりる霜が白いのをみると、もう夜もふけてしまったのだなあ。

中納言家持

天の原　ふりさけ見れば　春日なる
三笠の山に　出でし月かも

【現代語訳】
長安（ちょうあん）の天空をふり仰いで眺めると、今見ている月は、むかし奈良の春日にある三笠山に出ていた月と同じ月なのだなあ。

安倍仲麿

わが庵は　都のたつみ　しかぞすむ
世をうぢ山と　人はいふなり

【現代語訳】
私の庵（いおり）は都の東南にあり、このように心静かに暮らしている。それにもかかわらず、私が世を憂（うれ）いて宇治山に引きこもったと世間の人は言っているようだ。

喜撰法師

介護現場・認知症予防応援サイト
脳トレの効果
OK プリント使用・ダウンロード無料、施設での利用可
NG 他サイトでの再配布・複製・譲渡など不可
https://orange665.com/